

ビフォー アフター

1年生秋

進路志望調査用紙

自校の指導ツールを他校の教師とともに検討し、各校の生徒特性に合った形へ改善を図る本コーナー。今回は、文理選択や志望大学・学部・学科選択など、希望進路を把握する「進路志望調査用紙」について検討する。

検討会メンバー



鳥取県立
鳥取中央育英高校
前田幸男
まへた・ゆきお

教職歴18年。同校に赴任して12年目。進路指導部。数学科。「感謝の気持ちが行動の原動力」



東京都立
青山高校
鎌田邦広
かまた・くにひろ

教職歴29年。同校に赴任して4年目。進路指導主任。数学科。「目いっぱいやりきった!」そんな最高の笑顔で卒業してもらいたい」



長野県
屋代高校・附属中学校
宇都宮 仁
うつのみや・じん

教職歴26年。同校に赴任して6年目。キャリア教育係主任。国語科。「生徒の『直観』と『情熱』を育てていきたい」

検討

生徒の志望を揺さぶることで 真の進路観を育みたい



前田 本校でも近年、多くの地方公立高校と同様に、入学者の学力

や進路意識が多様化しています。大学の学部・学科や学問に対する視野が狭かったり、志望する資格や職業と志望する進学先がミスマッチを起しているというケースも。1年生の進路意識をどう育てていくかが課題です。



鎌田 テレビなどの影響で、志望する職業を安易に決める生徒もい

ますが、そうした志望は、本当の志望とは言えません。そもそも、生徒の志望とは、教師が「確認するもの」



ではなく、「育てるもの」です。**宇都宮** 「志望を育てる」という考え方は、

高校でも同じです。生徒に「なぜ大学に行くのか」「本当に大学が最適な進路なのか」と問いかけ、あいまいな状態の志望に揺さぶりをかけることが大切です。大学訪問や職場体験でやりたいことを突き詰め、大学、短大、専門学校はそれぞれ何が違うのかも調べ、じっくりと進路を考えてほしいです。生徒は保護者の価値観に左右されやすいですから、保護者に対しても保護者会や学年通信を

通した揺さぶりが必要です。

前田 生徒にも保護者にも揺さぶりは必要ですが、揺さぶりのタイミングや加減が難しいのも事実です。「自分の志望を変えさせようとしていく」と早合点し、教師に背を向けてしまうこともあるからです。

鎌田 生徒が自分で考えるきっかけづくりが重要ですね。その1つが、志望している進路だけでなく、志望理由などを書かせることだと思っています。本校でも、社会問題に対する考えや、幼少期からの興味・関心は、どのようなことがきっかけで持ったのかなど、どんなことでも構わないので、他者とのつながりや社会の中の自分を意識して志望理由を書かせています。ただ「志望理由を書きなさい」と言うだけでは、生徒

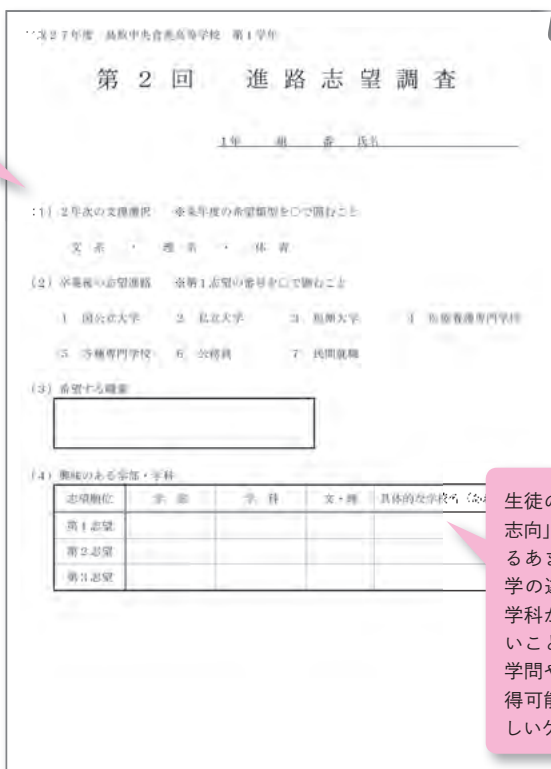
鳥取県立鳥取中央育英高校 前田幸男先生 1年生秋「進路志望調査用紙」

入学時点では、資格が取れる医療や教育などの分野に興味を持っている生徒が多い同校。「資格を取るのなら専門学校」と思い込んでしまっている生徒もいるため、大学進学などほかの道もあり、それぞれにメリットがあるといったことに気づかせる、きっかけづくりを重視した調査。

ねらいと機能

1年生が「大学進学」を具体的に考えるきっかけとしたい

鳥取県立鳥取中央育英高校では、1年生の6月、そして9月～10月に、右の用紙を用いて進路志望調査を実施している。同校は、入学時点で半数あまりの生徒が進学先の第1志望として専門学校を挙げる。この時期の進路志望調査では、文理選択の状況を把握するとともに、1学期中に行う適性検査や大学訪問などと併せて、卒業後の進路の選択肢として大学への興味・関心を高めるきっかけとなることが期待されている。



ビフォー

生徒の中には、入学時の「資格志向」「専門学校志向」にこだわるあまり、国立大学と私立大学の違いや、どのような学部・学科があるのかが分かっていないことがある。さらに、学べる学問やそこから広がる職業、取得可能な資格に関する知識が乏しいケースもある。

課題と解決策

- 3 生徒が書いたこと、書けなかったことを材料に面談を行う。
- 2 志望している進路だけでなく、どのような理由、きっかけでその志望に至ったのかを書かせる。
- 1 生徒の志望を安易に受け入れるのではなく、「なぜ?」「本当に?」と問いかけ、志望を揺さぶる。

はその場しのぎの言葉を連ねてくるかもしれないから、書く前に、「君たちが進路を深く考えるきっかけになる」「たとえ書けなくても、書けないうことを知ることが成長になる」と取り組みの意図を説明しています。
宇都宮 生徒にとって、少し考えるけれど気軽に書くことも許される、そんなシートがよいですね。生徒が書いたこと、書けなかったことはすべて面談の話題につながります。書くことで自分を揺さぶり、面談で教師から揺さぶられるのが理想です。
前田 多様な揺さぶりによって、生徒が「自分は本当にこの進路でよいのだろうか」と自ら問い直すことが、この時期の進路指導の目標になるというわけですね。

学校プロフィール

鳥取県立鳥取中央育英高校

- ◎全日制/普通科/普通コース、体育コース/共学/1学年約160人
- ◎2016年度進路実績(現浪計)/国公立大は、京都教育大、徳島大、高知大などに4人が合格。私立大は、順天堂大、鳥取看護大などに延べ35人が合格。短大進学19人、専門学校進学40人、就職20人、公務員11人。

東京都立青山高校

- ◎全日制/普通科/共学/1学年約280人
- ◎2016年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東京大、東京工業大、一橋大、京大などに103人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ611人が合格。

長野県屋代高校・附属中学校

- ◎全日制/普通科・理数科/共学/1学年約270人
- ◎2016年度入試合格実績(現役のみ)/国公立大は、東北大、京都大、大阪大などに129人が合格。私立大は、中央大、早稲田大、同志社大などに延べ339人が合格。

検討会で明らかになった課題を踏まえ「進路志望調査用紙」を改良! 次ページで紹介します。

アフター

進路志望調査

1年 組 番 氏名 _____

1. 高校卒業後の夢や目標、計画は何ですか。なりたい職業や学びたい学問、解決したい社会問題、かかわり続けたいテーマ、何でも構いませんので、記入してください。

※夢や目標、計画が漠然としている人は、「お金持ち」「アニメ」「海外」などキーワードでもOK。思いついたものを書こう。

2. 上記のような夢や目標、計画を持つようになったきっかけ、出来事を教えてください。

3. そのきっかけ、出来事を通して、「自分自身について分かったこと・気がついたこと」や「自分の中に生まれた変化」を教えてください。

4. 上記1の夢や目標、計画は、「社会（日本・世界）のためにできること」「自分以外の人の幸せ」にどのようにつながっていると考えられますか。

5. 自分の夢や目標、計画を実現するための進路として、第1志望の番号を○で囲んでください。

- 1 国公立大学 2 私立大学 3 短期大学 4 医療看護専門学校
5 各種専門学校 6 公務員 7 民間就職

6. 興味のある学部・学科

志望順位	学部	学科	文・理	具体的な学校名(あれば)
第1志望				
第2志望				
第3志望				

進路面談後に記入◎ 面談での先生のアドバイスを踏まえて、実現するための進路についてさらに調べてみよう。同じ希望進路の生徒と一緒に調べてもよい。

進路意識の醸成が不十分で、進学先に関する知識も乏しい生徒には、漠然とでもよいので将来かかわりたいテーマや気になることなど、できるだけ率直に書いてもらえそうな質問項目とした。

1～4の質問項目で書いた内容を基に、自分の夢や目標、計画を実現するための進路は何かを考えさせる。

1年生の秋の時点での志望は、あくまでも仮のもの。だからこそ、教師が面談で生徒の志望を揺さぶることが重要という観点から、面談の内容を踏まえた進路学習の成果や気づきを書き込む欄を新たに設けた。

改訂後のねらいと機能

現状の調査ではなく、対話のヒントを拾うツールに

改訂版では、現時点での希望進路を聞く前に、「高校卒業後の夢や目標」「そのきっかけとなった出来事」「出来事を通して自分について気づいたこと」など、言わば希望進路に至る背景を人念に尋ねる質問項目とした。また、理路整然とした言葉だけでなく、キーワードレベルでの回答も認めるようにしたのは、進路志望調査用紙を基にした進路面談で、生徒の志望を掘り下げていくヒントを少しでも多く拾い上げようという意図からだ。まさに「調査」のための記入用紙から、「教師と生徒の対話のツール」としての用紙へとねらいが大きく変化した。

なお、今回の検討会では、「生徒の進路意識を高めるには、教師の100のアドバイス以上に、上級生や卒業生の言葉が有効」（宇都宮先生）という観点から、「卒業生を学校に招き、進路選択の体験を語ってもらうこと」で、「僕らでも、国公立大学に行けるんだ』『自分も頑張ろう』と、生徒の意識改革が図れた」（鎌田先生）といった事例も紹介された。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<http://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」でご覧ください。

活用

興味・関心があるキーワードから、対話の中で進路観を醸成する



前田 改訂版では、希望進路を書かせる前に、その背景となる**興味・関心**や**社会問題**など、**キーワード**レベルでもよいので**挙げさせる**ようにしています。現実として、1年生の段階で「将来何になりたいか」が明確であっても、その職業にそのまま就く生徒は多くはありません。私たちが「何になりたいか」と問うのは、職業名を聞きたいからではなく、希望進路へのこだわりにつながる**キーワード**が知りたいからだと思に至りました。



宇都宮 キーワードでもよいとすることで、いろいろな考えが出しやすくなり、面談でも「だったらこんなことも……」などと話を広げやすくなりますね。「解決したい社会問題」と言うとき少し重い感じもするので、**用紙を配った時に「自分の好きなことが自分以外の人にどう役立つのかを考えてみよう」**などと少し



鎌田 「志望（キーワード）」↓「出来事」↓「出来事から分かったこと」と、段階を踏んで書かせることで、自分について深く掘り下げて考えていくことができ、真の志望の糸口が見えてくるのではないのでしょうか。教師との面談の材料としてはもちろん、書いたものをほかの生徒と共有し合えば、きつとよい刺激になるでしょうし、似たような進路を志望する生徒をグループにして、どのような進学先や学問があるのかなどを協働しながら調べさせてもよいでしょう。一人ひとりが書いたものはあくまでも出発点で、それを基に面談やグ

ループワークを行い、探究させることで、**進路志望調査が完成する**という考え方です。



活用の流れ

1 進路志望調査用紙を書かせる前に、教師から書く目的・意図を伝える。

2 記入した用紙を参考に、進路面談を行い、真の志望かどうかを生徒自身に見極めさせる。

3 真の志望が固まった生徒には、進路先について詳しく調べさせ、さらに深く考えさせる。

ね。そして、生徒にとっては保護者と向き合い、対話し、説得するための第一歩にしてもらいたいです。

鎌田 実際には、高校時代を目指した職業に就く人は多くはないかもしれませんが、「社会に貢献できる」という納得感があるから、ほかの職業に就いても続けていけるのではないのでしょうか。「社会で生きるための自分の軸とは何か」を生徒が自らに問い続けられるような指導をしたいです。

前田 社会とのつながりの中で、生徒が自分の可能性を引き出せるような指導をこれからも追求していきたいと思っています。